

国際園芸博覧会の構想案について

－ 目 次 －

1. 基本理念及びテーマ.....	2
2. 事業展開.....	6
3. 事業構成.....	10
(1) 開催場所.....	10
(2) 開催年及び開催期日・期間.....	12
(3) 会場構成.....	14
(4) 地域整備の方向性.....	18
(5) 輸送計画.....	20

令和元年 9 月30日

- 横浜市の構想案は、基本理念及びテーマ、開催場所、開催時期等、全体としては国による国際園芸博覧会としてふさわしい内容を備えている。
- 一方で、会場敷地の確保や輸送計画などの国際園芸博覧会を開催する上で必要な要素について、様々な状況や手段を想定した上での詳細な検討を行うことが不可欠である。
- また、国際園芸博覧会で体験できる事業コンセプト・コンテンツや会場構成・演出、情報発信や機運醸成のために行う取組については、具体的な内容が現段階では示されていないので、委員からいただいた意見などを踏まえ、今後さらに検討を行うことが必要である。

横浜市における国際園芸博覧会の構想案	事務局の考え方（詳細は次ページ以降参照）
基本理念及びテーマ	国が開催する博覧会にふさわしい
事業展開	コンテンツについてさらなる検討が必要
開催場所	国際園芸博覧会を開催するにふさわしい
開催年及び開催期日・期間	国際園芸博覧会として適切な期間
会場構成	今後さらなる検討が必要
地域整備の方向性	レガシーを生かしたまちづくりのさらなる検討が必要
輸送計画	新たな交通インフラ等具体的な検討が必要

1. 基本理念及びテーマ

- ・横浜市案は、基本理念を具現化・可視化する基本構造としてグリーンインフラを位置付け、メインテーマを「幸せを創る明日の風景」としている。
- ・これらは、近年の国際園芸博覧会や日本における博覧会、とりわけ2025年に開催される大阪・関西万博のテーマを踏まえ、更に発展させていくものであり、国が開催する国際園芸博覧会の基本理念及びテーマとして相応しいと考える。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

■ 基本理念を具現化・可視化する基本構造

- ・グリーンインフラ(サステナブルインフラ、社会的な共有資源)。
- ・インフラ・ベストミックスに関する日本のシステム等を発信・共有し、持続的な社会の構築に貢献。等

■メインテーマ



■テーマの意図：日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会

- 花や緑、農による価値の今日的効果を国際園芸博覧会という参加体験による実証の場を通して世界に問いかける
- 新たな価値観・産業領域の創出等とあいまって、国際的な課題の解決や未来社会の展望に新しい視点を与え、進展に大きく寄与
- グリーンインフラがもたらす風景や新たな価値は、豊かさの質を深める持続可能な未来の環境社会に新たな価値をもたらす

1. 基本理念及びテーマ

第1回検討会における委員意見

- 「愛・地球博」では、国として開催する意義について大変な議論を重ね、誰もが環境問題のステークホルダーになるということを前提とした博覧会とすることとした。この国際園芸博覧会では SDGs等の世界的な課題について、どういう立ち位置で世界に問うのかとの議論が必要。SDGs や Society5.0 などの新しいテーマの推進や、モノの生産よりコトの生産、イノベーションよりもクリエイション、誰もが快適に暮らせる人間中心のまちづくりへの移行など、社会は大きく変化している。こうした変化を背景に、国際園芸博覧会を上瀬谷で開催する意義を十分整理する必要がある。
- 市民が参加しての将来の新しい園芸文化を発信する場となってほしい。
- 超高齢社会にあって、「生きていてよかった」という場所を作ることが必要。人と人の出会いの創出、効率化や均質化とは異なる価値観を示せることが重要。
- 花や緑との関わりを考えることを通して、新しい技術革新が進む社会において人間の幸せの姿はどうあるべきかを考えていきたい。
- 横浜市として上瀬谷地域をどのようにモデル化できるか、日本のこれからの超高齢社会においてひとつの先端的な生き方につながるまちづくりを提案できるよう、議論を深めるべき。
- 横浜での開催のため、都市型農業やスマート農業というものが材料となる一方で、農業全体や花き産業全体を視野に、地方の現状も踏まえた「農の発展」を視野に入れてほしい。

【参考】他博覧会等におけるテーマの例

近年の国際園芸博覧会

- 近年の国際園芸博覧会は、緑の都市、持続可能性、教育、健康など、人間の生活をテーマとして開催されてきている。
- 横浜市案は、近年の国際園芸博覧会の潮流を継承するものとなっていると考える。

開催年	名 称	テーマ
2016	アンタルヤ国際園芸博覧会 (トルコ)	花と子供達 サブテーマ:「歴史」、「生物多様性」、「持続可能性」、「緑の都市」
2019	北京国際園芸博覧会 (中国)	緑の生活、より良い生活 サブテーマ:「緑の発展」、「生活における園芸」、「自然との調和」、「教育と未来」、「心のふるさと」
2021	ドーハ国際園芸博覧会 (カタール)	緑の砂漠 よりよい環境 サブテーマ:「環境の認知」、「技術革新」、「持続可能性」、「現代的農業」
2022	フロリアード・アルメーレ (オランダ)	成長する緑の都市 サブテーマ:「緑」、「食」、「健康」、「エネルギー」

【近年の国際園芸博覧会の潮流】

園芸産業振興とともに社会課題への貢献が展開。花と緑を通じた生活の質の向上等がテーマ。

2027	横浜市における国際園芸博覧会	幸せを創る明日の風景
------	----------------	------------

【参考】他博覧会等におけるテーマの例

日本における博覧会

- ・ 花の万博（1990年）以降、我が国では、計2回の登録博覧会と国際園芸博覧会(A1)を開催。常に、自然と人間の関係性を見つめ直す機会と、新しい社会の構築の契機となってきた。
- ・ 2025年には、未来社会のデザインをテーマとする大阪・関西万博が開催される。
- ・ 横浜市案は、日本における博覧会の潮流を継承するものとなっていると考える。

開催年	名 称	テーマ	成果等
1990	国際花と緑の博覧会 (花の万博)	「自然と人間の共生」 花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす	・ 自然と人間の調和のある発展を目指すことを命題とした。 ・ 花と緑に対する関心と興味の喚起。都市緑化推進、花のある生活の充実に貢献。
2005	2005年日本国際博覧会 (愛・地球博)	「自然の叡智」 サブテーマ: 宇宙、生命と情報 人生の“わざ”と智慧 循環型社会	・ 最先端技術の適用、新たな社会行動やシステムの採用、多様な文化・価値観の共有などを博覧会を通じて表現。 ・ 国連「持続可能な開発のための教育の10年」計画のリーディングプロジェクトの位置付けとの評価。
2025	2025年日本国際博覧会 (大阪・関西万博)	「いのち輝く未来社会のデザイン」 サブテーマ: 多様で心身共に健康な生き方、 持続可能な社会・経済システム	

【日本における博覧会の潮流】

自然と人間の関係性を見つめ直す機会と、新しい社会の構築の契機

2027	横浜市における国際園芸博覧会	幸せを創る明日の風景
------	----------------	------------

2. 事業展開

- 横浜市案は、事業展開にあたり、ガーデンシティ横浜の推進等を通じて、開催に向けた機運醸成を図るとしており、また具体的な事業の方向性として、花・緑・農・食・大地・交流を設定しているが、この方向性は基本理念やテーマと合致していると考ええる。
- 実際に国際園芸博覧会で体験できる事業コンセプト・コンテンツや、機運醸成のために行う取組について、上瀬谷という場所の特性を生かしつつ、地球規模課題への対応、海外も含む新しい園芸文化の発信、多方面に及ぶネットワークの計画的な構築、地方の現状も踏まえた「農の発展」等の視点に留意しつつ、具体化していくことが望ましいと考える。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

■事業展開の考え方

- 日本・横浜らしさや魅力の発揮
- 博覧会後のレガシーの社会定着促進 等
- 国際園芸博覧会の開催に向けた市民、企業等の機運醸成
(ガーデンシティ横浜の推進 等)



■事業コンセプト・コンテンツ



2. 事業展開

第1回検討会における委員意見

- 大阪花博は6年前からプレイベントを続けて行い国民への周知を徹底した。グリーンインフラに関しては、横浜市の市民力がその公共インフラにまで及び、社会資本は自分たちのものであり自分たちで管理すべきとの意識を高めることに意味がある。市民と国民がこの博覧会に何を期待するのか、期待できるのかをプレイベントの中に織り込んでいくことが必要。国際園芸博覧会での経験が、グリーンインフラの管理を担う市民意識を高揚させる機会となりうる。
- 市民が参加しての将来の新しい園芸文化を発信する場となってほしい。
- 海外からの来場者や関係者が日本全国各地を訪れるように、全国自治体とのネットワークをこの国際園芸博覧会を通して築けるとよい。
- 開催までの間、様々なワークショップ等を通して人と人との関係性を築いていくべき。
- 生物多様性や地球規模の環境保全といったものがどういうものか、具体的に体感できるものを見せてほしい。
- 花や緑、農業や環境まで幅広くとらえ、人間の幸福度が高まるようなコンテンツを打ち出せるとよい。
- 日本の生け花は、日本特有の花文化であり、自然や植物に対する信仰心と結びついている。イングリッシュガーデンよりも、琳派絵画にあるような日本の花や、日本の里山や風景、蓮田というような日本の原風景を国内外へ発信してほしい。
- 農地を含めたまちづくりの提案を行える場所で、クールジャパン、日本の伝統や文化をどう組み合わせるかが求められている。
- 横浜での開催のため、都市型農業やスマート農業というものが材料となる一方で、農業全体や花き産業全体を視野に、地方の現状も踏まえた「農の発展」を視野に入れてほしい。
- 日本から発信するだけでなく海外からの出展者の園芸文化や技術を情報発信できるような仕組み、またはそのような魅力があることを海外へ向けて発信する取組みが必要。海外から出展したいと思ってもらえるようにする必要がある。
- 日本、横浜、上瀬谷ならではの時間、空間、価値を体験できるという部分をどう見せるのか、具体化することが必要。バーチャルをうまく使いつつ、やはりリアルな体験が強みになる。

【参考】他博覧会の機運醸成例

国際花と緑の博覧会「花の万博」

- ・ 国際花と緑の博覧会「花の万博」（1990年）では、開催前から、会場でのプレイベントをはじめ、様々な広報活動を展開した。
- ・ 広報活動の基本方針等について審議する広報委員会を設置。開催前から会期末までを6期に分け、必要な広報活動を検討している。

開催前

プレイベント実施

鶴見緑地で会場建設が始まるまで毎年開催

- ・ S59「おおさか'84」：40万人入場
- ・ S60「花・食の祭典」：91万2千人入場
- ・ S61「花に集い、花に憩い、花に遊ぶ」：76万9千人入場

広報委員会（広報活動検討）

- 大まかな年次別期間テーマ設定
 - ◇ 第1期（昭和61年）
開催のPR
 - ◇ 第2期（昭和62年前半）
花の万博のコンセプトと意義の訴求
 - ◇ 第3期（昭和62年後半）
進行状況の多角的訴求
 - ◇ 第4期（昭和63年）
入場券発売期を踏まえた多角的な期待感の醸成
 - ◇ 第5期（平成1年）
博覧会の具体的な展示や催物の内容を取り上げ、楽しさの訴求を行う
 - ◇ 第6期（平成2年）
動員フォローの徹底キャンペーン

国内広報活動

- ・ 記念行事の開催
- ・ その他広報イベント
- ・ 各種行事への広報参加
- ・ 広告の出稿
- ・ 屋外看板等
- ・ 公式ポスター
- 等

海外広報活動

- ・ 海外の国際博覧会等への広報参加
- ・ 国際的募集企画への協賛PR
- ・ その他の海外広報
- 等

会期中（H2(1990)年）

- 観光客誘致キャンペーン・各種広報イベント
 - ・ 飛行船キャラバン
 - ・ シンポジウム
 - ・ ウォーキング大会
 - 等
- 広報コンパニオンによる報宣伝活動
- 広報プロモーションツールの活用
 - ・ イベント旗
 - ・ プロモーションビデオ等
- マスメディアへの出稿
 - ・ 新聞広告出稿
 - ・ テレビスポットの投下
- 花の万博放送局
 - ・ 会期終了まで、会場から半径25～30kmの範囲の聴取者に放送
- アマチュア無線特別記念局
- 花の万博新聞の発行
- 等

【参考】他博覧会等におけるコンテンツ検討例

国際花と緑の博覧会「花の万博」／ 大阪・関西万博

- 国際花と緑の博覧会「花の万博」（1990年）の検討過程において、大阪市による「花の博覧会基本構想」（開催6年前）では、会場計画、行催事計画、広報計画、財政計画などについて詳細な検討がなされた。同構想内の「花の環」には、花のパレード、花のロボット展、大温室、エキステリアコンペ等のコンテンツが示された。
- 大阪・関西万博のビッド・ドシエ（開催8年前提出）では、万博テーマを具体化する「EXPOテーマ体験」を設定。当テーマに沿ったパビリオン、プログラムの導入が示されている。

■国際花と緑の博覧会「花の万博」

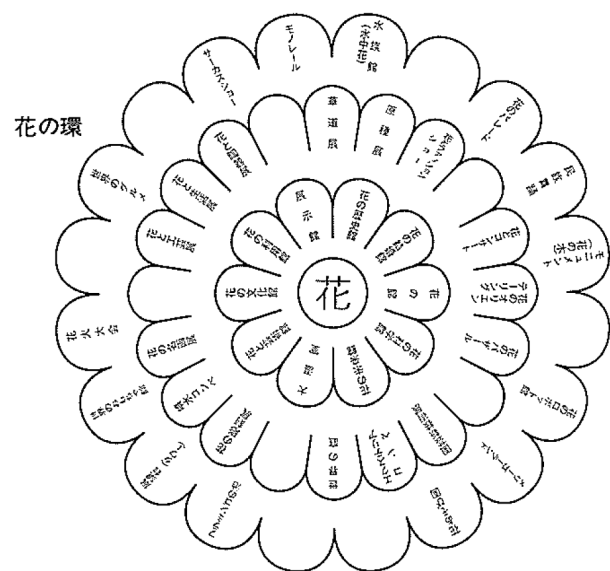
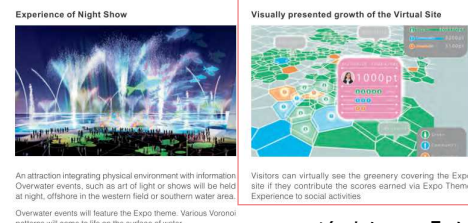


図 花の環（「花の博覧会基本構想」、S59）

出典：「国際花と緑の博覧会と大阪市」（大阪市、H3.3）

■大阪・関西万博ビッド・ドシエ



Visually presented growth of the Virtual Site



Visitors can virtually see the greenery covering the Expo site if they contribute the scores earned via Expo Theme Experience to social activities

（仮訳）

バーチャル会場の成長の可視化
テーマ体験によって獲得された
ポイントを社会貢献に活用すると、
緑が会場を覆っていくことで、
模擬的に可視化する。

図 導入するプログラム例（一部抜粋）

資料：「大阪・関西万博ビッド・ドシエ（英語版）」に一部、資料作成者が日本語仮訳を追記

3. 事業構成

(1) 開催場所

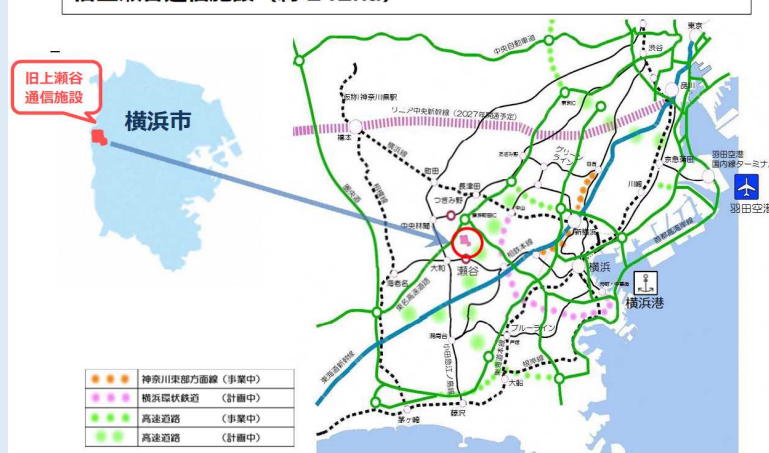
- 横浜市案は、旧上瀬谷通信施設を開催場所としている。元々明治期に養蚕業を中心に発展した当該地域は、通信施設としての厳しい土地利用規制等の経緯を経て首都圏に残された貴重な大規模緑地、農地であるとともに、インターチェンジや鉄道駅、空港に近い位置にある。バックヤードも含めた敷地を確保することを前提とし、国際園芸博覧会の会場として相応しいと考える。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

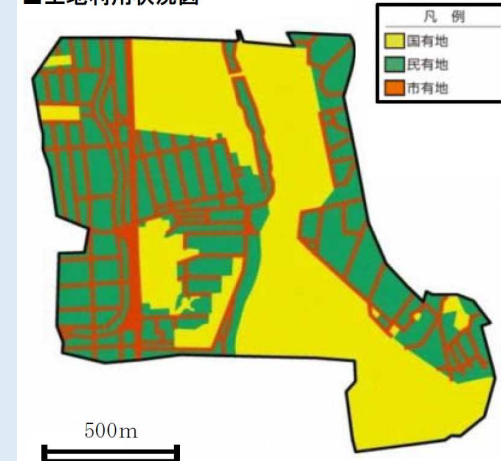
■旧上瀬谷通信施設

- 面積242ha と首都圏においても貴重な広大で平坦な土地
- 東名高速道路や保土ヶ谷バイパスの高規格道路に近接し交通アクセス確保が可能
- 農業振興と融合した新しいまちづくりの検討を進めており、大きな可能性を有している、郊外部活性化の拠点

旧上瀬谷通信施設（約 242ha）



■土地利用状況図



【参考】他博覧会等の会場立地

日本における博覧会

- ・日本における博覧会はこれまで、国際空港から1時間以内、鉄道駅から10分程度の距離において開催されてきた。
- ・横浜市案は、過去の博覧会会場と比較して、遜色のないアクセス利便性を有する立地条件にあると考える。

開催年	名 称	会場面積	博覧会前の 土地利用	空港 からのアクセス	最寄鉄道駅 からのアクセス
1990	国際花と緑の 博覧会 (花の万博)	約140 ha	緑地	大阪国際空港 から35分	京橋駅から 約10分
2005	2005年 日本国際博覧会 (愛・地球博)	長久手会場:約158 ha 瀬戸会場:約15 ha	公園	中部国際空港 から62分	万博八草駅から シャトルバス約5分 リニアモーターカー 3分
2025	2025年日本国際 博覧会(大阪・関西 万博)	155 ha(予定)	空き地(人工島)	関西国際空港 から約40分	夢洲まで延伸計画
2027	横浜市における 国際園芸博覧会	約80～100ha(予定)	通信基地跡地 農地	羽田空港 から40分	瀬谷駅 から1.5km

資料：国際花と緑の博覧会公式記録（財団法人国際花と緑の博覧会協会、1991.10）
 EXPO' 90ガイドマップ（大阪市）
 愛・地球博HP <http://www.expo2005.or.jp/>（2019.09.23閲覧）
 「大阪・関西万博ビッド・ドシエ（英語版）」

3. 事業構成

(2) 開催年及び開催期日・期間

- ・横浜市は、2027年3月～9月（6か月間）の開催をAIPHに申請している。
- ・当該開催年は、SDGs目標年の3年前に当たるなど、地球規模課題解決への道筋を示すことが求められている時期である。また、2025年大阪・関西万博のレガシーを引き継いで開催することで強力な相乗効果が期待できる。
- ・開催期間は、海外からの来訪者を含めた来場者を迎え入れる上で適切な期間であると考ええる。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

2027年3月～9月(6か月間)

■開催年・期日・期間

- 開催年はパリ協定開始年の2020年と、SDGs目標年2030年の間に位置し、気候変動などの問題がさらに深刻化し、人類の危機回避に向けての取組がより重要性を帯びてきている段階。
- AIPHの規定により、A1クラスの開催要件として、開催期間は3か月以上6か月以下。
- 過去の国際博覧会では、初春から初秋のゴールデンウィーク、夏休み期間を含む期間で設定。
- 機運醸成やPR強化のためのプレイベントの実施を考慮。
- 横浜におけるサクラ、チューリップ、バラなどの開花時期等を考慮。

第1回検討会における委員意見

- ・2025年の大阪万博から2年後の横浜での国際園芸博覧会を、どのように相乗効果で盛り上げられるかを考えることが大事である。

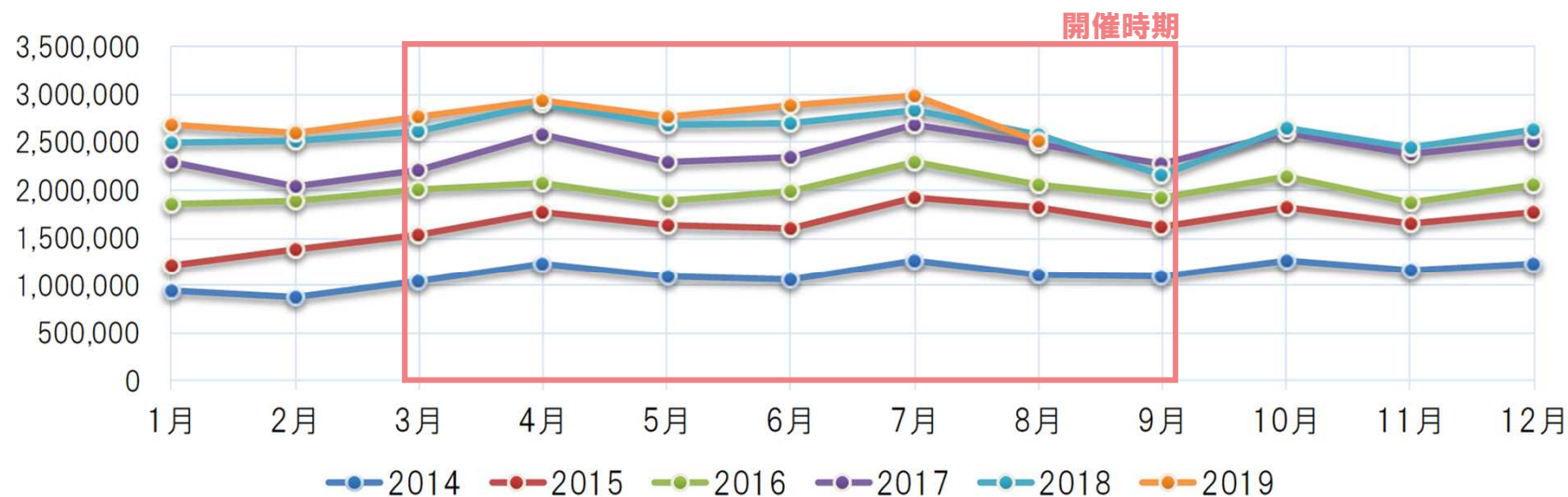
【参考】開催時期について

- 横浜市案の開催時期は、国際園芸博覧会の開催条件を満たしている。
- また、訪日観光客の旅行シーズンのピークに開催しており、また日本を代表する花であるサクラをはじめとする春の花の開花期が開催期間に含まれている。

■ AIPH: AIクラスの開催条件
・最短3カ月、最長6ヶ月

■ BIE: 認定博「Horticultural Expo」としての開催条件
・最長6ヶ月

■ 過去5年の訪日外客数(総数)



出典: 日本政府観光局(JNTO)

3. 事業構成

(3) 会場構成

- ・横浜市案は、博覧会会場ゾーン案（検討中）を示している。
- ・会場構成は博覧会後のまちづくりに強い関連性を有していることから、それらの計画に基づく合理的なゾーニング案を、具体化していくことが望ましいと考える。

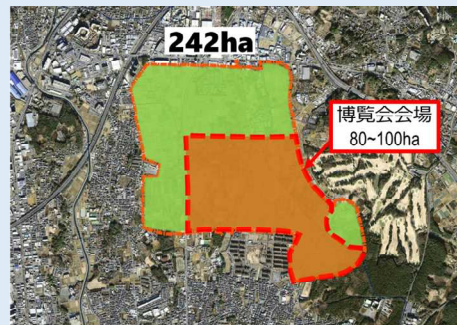
横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

■会場計画・機能構成の基本的考え方

- 横浜・上瀬谷の自然や農との連携
- グリーンインフラの実践
- 日本の伝統的な空間構造を具現化

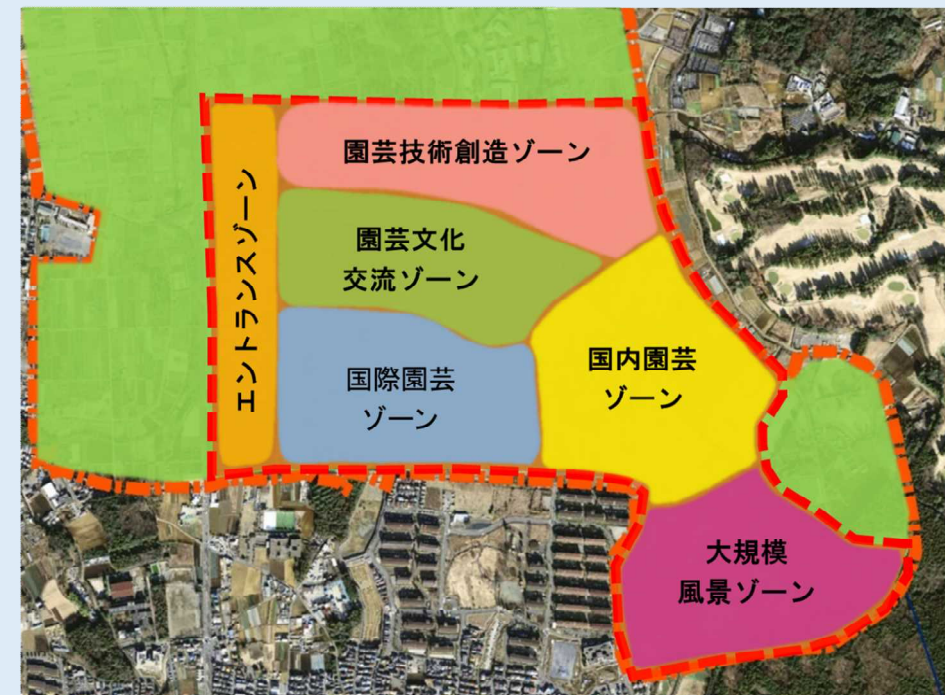
※なお、会場構成については、旧上瀬谷通信施設の将来土地利用計画等と整合性を図ったものとし、また、土地ポテンシャルの活用や周辺住宅地や周辺道路の混雑を考慮することとする。

■会場位置



※会場位置は検討中のものであり確定したものではありません。

■博覧会会場ゾーン案

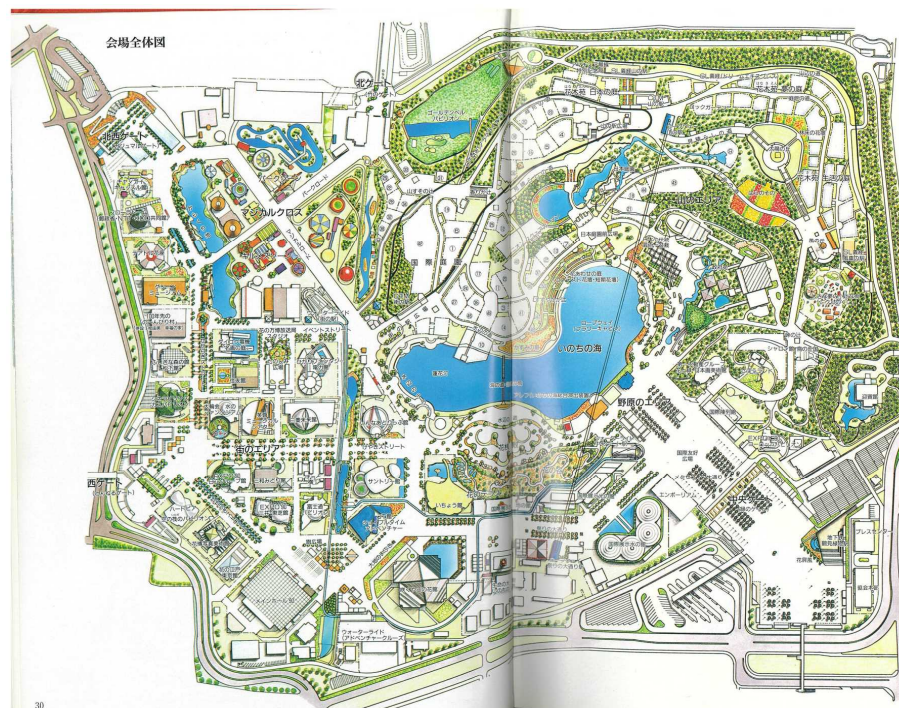
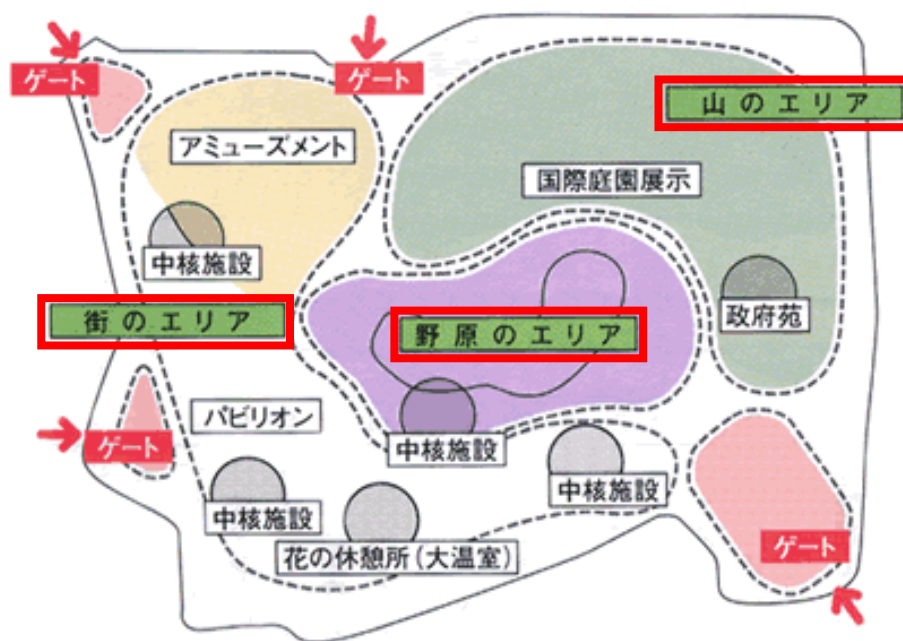


※ゾーン案は、検討中のものであり確定したものではありません。

【参考】他博覧会等の会場構成検討

■国際花と緑の博覧会「花の万博」第2次会場計画(1988.6)

- ・ 会場の地形を日本の風土の基本的な空間構造を象徴するものとしてとらえ、「山のエリア」、「野原のエリア」、「街のエリア」の3つのエリアを基本要素として会場を構成。
- ・ 各エリアは相互融合的で重層的、連続的な空間となるよう配慮。
- ・ 会場の回遊の主軸となる骨格的な回遊動線を明確に設定し、回遊動線を中心に観客に各種サービスを提供し、出会い・集散の場、休憩の場となる拠点的広場を配置。



資料：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会HP <https://www.expo-cosmos.or.jp/> 2019.09.23閲覧
国際花と緑の博覧会公式記録（財団法人国際花と緑の博覧会協会、1991.10）

【参考】他博覧会の会場構成例

北京国際園芸博覧会(2019年)

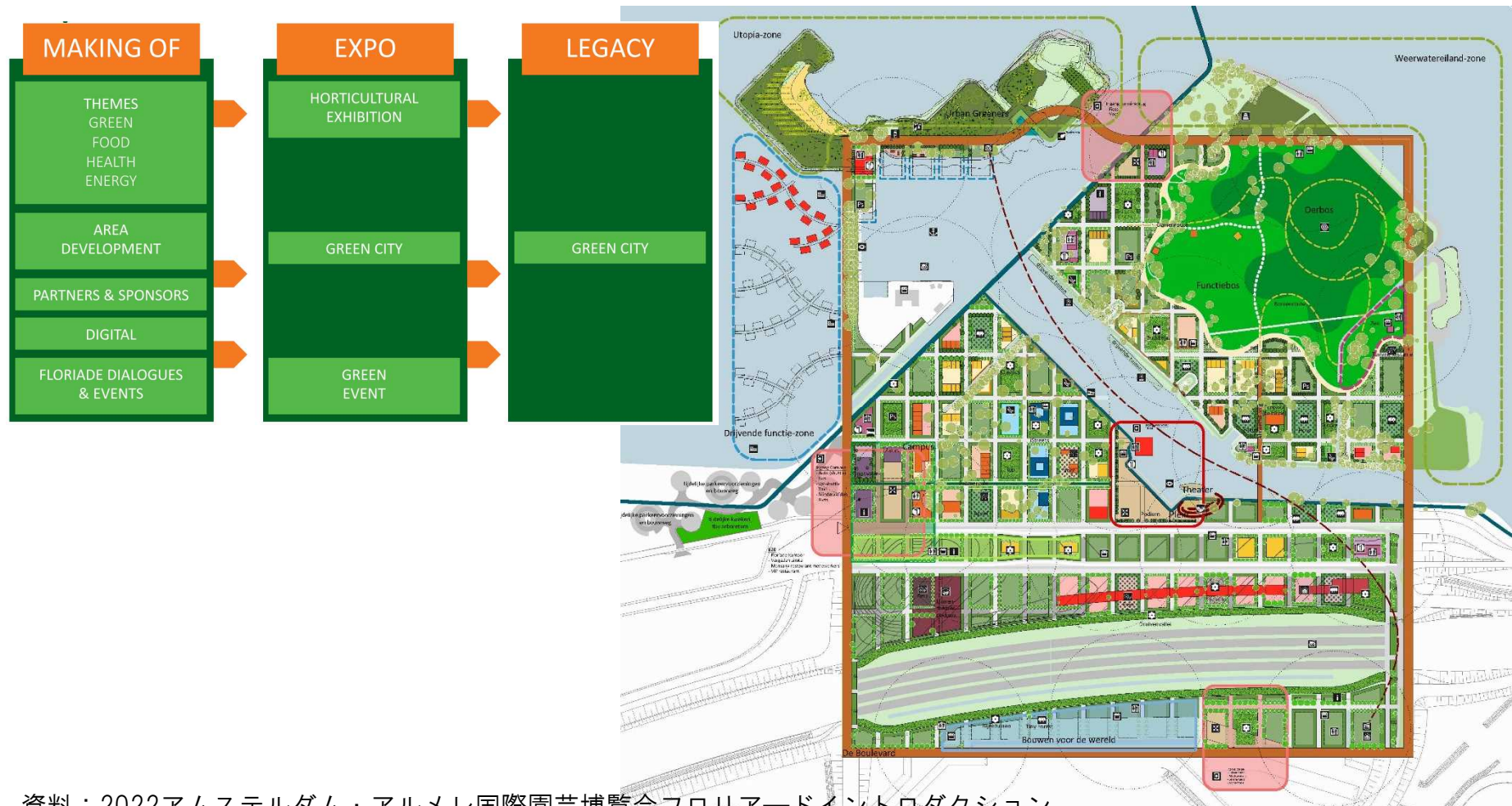
- 北京国際園芸博覧会は、以下のゾーニングの構成となっている。
 - 1心：中核景觀地区
 - 2軸：風景庭軸、世界園芸軸
 - 3帯：生態レジャーゾーン、園芸技術開発ゾーン、園芸生活体験ゾーン
 - 多片区：中国園芸展示区、世界園芸展示区、園芸生活体験区、教育と将来の展示区、自然生態学的展示区



【参考】他博覧会の会場構成例

フロリアード・アルメーレ(2022年)

- ・ アルメーレ国際園芸博覧会の会場は、レガシーを活用したまちづくりとして、グリーンシティの形成を見据えて会場プランを構想している。



資料：2022アムステルダム・アルメーレ国際園芸博覧会フロリアードイントロダクション
EXPO2022 FLORIAD HP <https://floriade.com/> (2019.9.24閲覧)

3. 事業構成

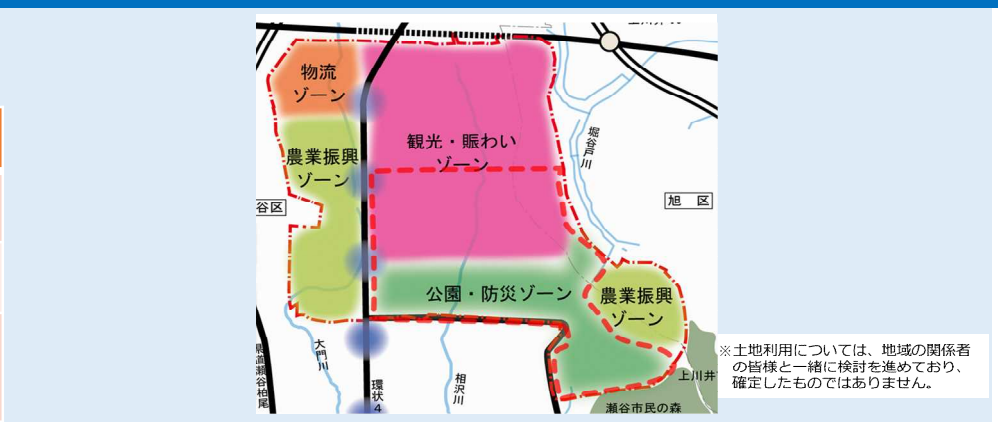
(4) 地域整備の方向性

- ・横浜市は、農業振興、活力創造、公共・公益を要素として、当該地域の将来土地利用の方向性を検討している。
- ・広大な農地と豊富な自然環境が残る現在の土地利用を生かしつつ、ネットワーク社会への対応や超高齢社会における先端的な生き方につながるまちづくりの提案等、メッセージ性を意識して地域整備を具体化することが望ましいと考える。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

■ 郊外部の活性化拠点の形成に向け、 土地利用を進める3つの要素

要素	意味
農業振興	活力ある都市農業の展開
活力創造	産業振興、賑わいや交流を促進
公共・公益	本市を含む広域的課題や地域の課題を解決



第1回検討会における委員意見

- 人口減少が進む中で新たな都市開発を行うことは疑問符が付く時代。世界へ発信できる新しい要素やメッセージ性の高いまちづくりを創出することが重要。
- 横浜市として上瀬谷地域をどのようにモデル化できるか、日本のこれからの超高齢社会においてひとつの先端的な生き方につながるまちづくりを提案できるよう、議論を深めるべき。
- ネットワーク社会を意識したまちづくりにつながるように、周辺地域も含めた跡地利用について精緻に計画してほしい。
- 旧上瀬谷通信施設の現在の土地利用はほぼ農地である。跡地利用として農地を含めた提案が必要。

【参考】他博覧会等における地域整備の方向性

近年の国際園芸博覧会

- ・ 近年の国際園芸博覧会は、博覧会の会場跡地は、博覧会のテーマを継承するような利用がなされている。

開催年	名 称	テーマ	跡地利用
2012	フロリアード・フェンロー(オランダ)	自然と調和する人生	会場跡地は、フェンローグリーンパークイノベーションコンプレックスとして、農業・園芸分野の起業家、研究者のためのフィールドとして利用されている。
2016	アンタルヤ国際園芸博覧会(トルコ)	花と子供達	会場跡地は、国際協力を促進し、農業問題に対処する知識を共有し、鍵を握る環境問題への認識を高めるための、国際的な技術・トレーニングセンターとしての活用が宣言されている。
2019	北京国際園芸博覧会(中国)	緑の生活、美しいふるさと	園芸博覧会後は、園芸産業の拠点とされる園芸プロダクトの研究拠点、大規模なエコロジカルパーク、園芸貿易センター等となる予定。
2021	ドーハ国際園芸博覧会 (カタール)	緑の砂漠 よりよい環境	会場は都市の歴史的な中心部に近い公園を活用。
2022	フロリアード・アルメーレ(オランダ)	成長する緑の都市	会場跡地は、緑の原則に基づく新たな都市の区画として整備される。

3. 事業構成

(5) 輸送計画

- ・横浜市案は、既存の交通インフラに基づく交通混雑緩和策を示すとともに、新たな交通インフラも見据えた検討についても示している。
- ・今後、1日あたりの最大来場者数等の前提条件を整理した上で、博覧会時に適確に来場者を輸送できる計画の検討が必要であり、また、新たな交通インフラは博覧会後のまちづくりにおいても効果が発揮されるよう具体的な検討が必要。

横浜における国際園芸博覧会の基本構想案

■電車利用、車利用によるアクセス

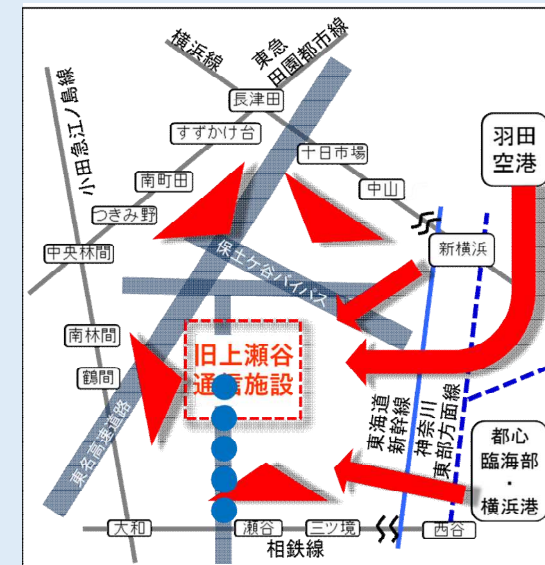
- ・最寄りCまで車で、羽田空港から40分、成田空港から70分。
- ・最寄り駅まで電車で、横浜駅から20分、新横浜駅から40分。

■交通混雑緩和策

- ・近隣駅からのシャトルバス検討など、多方面に分散させる輸送計画。
- ・自家用車ででの来場者を抑制。
- ・道路の新設、既存道路の拡幅や交差点改良等、交通混雑緩和のため道路の機能強化
- ・跡地周辺の道路の負荷軽減のため駐車場の配置や進入路など工夫。必要となる駐車場は国有地を中心に検討。

■新たな交通インフラ

- ・相鉄・JR直通線2019年開業、相鉄・東急直通線2022年度下期開業予定。
- ・新たな交通について、将来の土地利用の進捗に合わせて整備を進め、博覧会時に有効に機能する交通手段を見極めて対応。



第1回検討会における委員意見

- ・会場へのアクセスについては集客に大きく影響する。準備をしっかりと進めてほしい。
- ・車の利便性は高いが、公共交通は脆弱である。将来の横浜市にとっても有効な輸送アクセスを検討するべき。

【参考】他博覧会等における輸送計画検討例

大阪・関西万博

- 大阪・関西万博のビッド・ドシエ（開催8年前提出）では、計画日来場者数から設定したピーク時来場者数とピーク時退場者数が、快適に会場までを移動できるよう、輸送計画を立案している。
- またビッド・ドシエでは、また万博誘致が決定した場合、「コスモスクエア駅から新たに開設する夢洲駅（仮称）まで延伸した地下鉄中央線が主な公共交通ルートになる予定である。」としている。

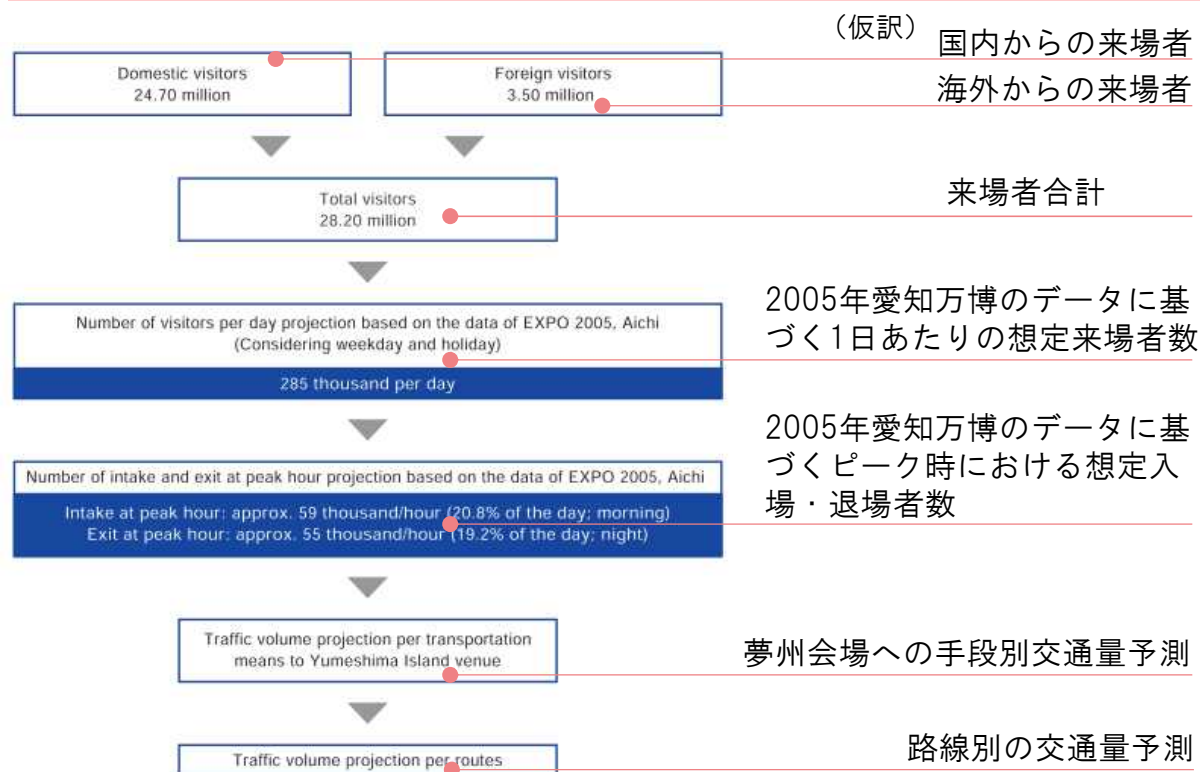
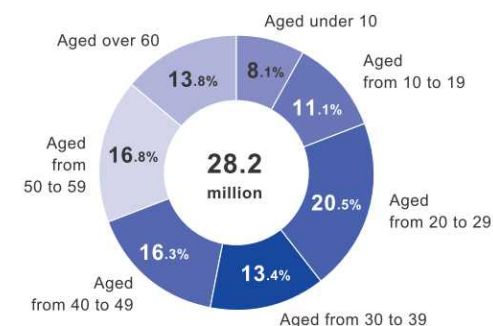


図 万博期間中の追加交通需要のシミュレートフロー

資料：「大阪・関西万博ビッド・ドシエ（英語版）」に一部、資料作成者が日本語仮訳を追記



Source: projected based on the data of the International Garden and Greenery Exposition, held in Osaka in 1990

図 年齢毎の予想来場者数

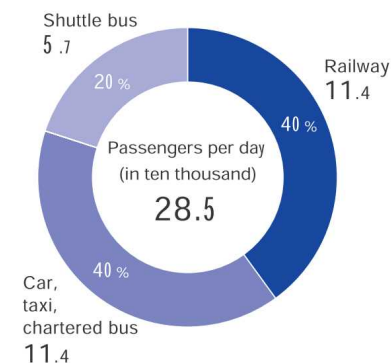


図 1日あたりの交通手段と乗客1人あたりの予想利用率